

悪の枢軸 — 喜劇映画研究会結成三十周年ウラ話

喜劇映画研究会 新野敏也

またまたお邪魔します！と、5年前に誌面を占拠した私、アラノが僭越ながらも再び失礼致します。「笑息筋」第一五号からしつこくも生き延びて、遂に結成30周年を迎えてしまいました。憎まれっ子世に憚るというよりワルおやじ世に蔓延るとなりましたが、寛容な皆様！不肖、私、改めまして今だから話せるネタで拙会30年の軌跡（奇跡）をご紹介させていただきます。

【設立】ご存知の方も多いとは思いますが、拙会は演劇界の巨星ケラリーノ・サンドロヴィッチが創設者となります。彼がまだ小林という苗字の小学生だった頃、東宝東和（当時は東和）の配給で「ババ！チャップリン」、フランス映画社配給で「ハロー！キートン」という古典映画のリバイバル上映が行われました。この喜劇に憑依された小林はいよいよドロ沼に足をつつ込みます。あざとい非法の並行輸入業者がアメリカ製8ミリ・フィルムでチャップリン等の作品を劇場リバイバルにカチ合わせ通販していたのですが、コメディ熱に魔された小林は父親の預金を無断で使い込んでジャンジャン映画を買い漁りました。輸入業者から見ればガキだろうと優良顧客な訳で、陰湿にも珍しいフィルムをチラつかせます。そこで小林

は大量購入の資金稼ぎにと、貸しホールでの自主上映を画策しました。輸入業者の宣伝と引き換えに値引き交渉を有利に進め、同時に自分で購入すべきテイストの作品かどうかの選別を行うという「有料試写会」を企画したのです。そう、お気づきのとおり、これが「喜劇映画研究会」と名乗ったサークルの始まりです。資料などが既にないので、小林の記憶によれば76年の春だったとの事で、当時、樫の木モックみたいな風貌の少年だった小林が受付を兼ねて映写技師も行っていたところ（この時はスタップもなく独りだったらしい）、ご来場の社会人や大学生から『可哀想！お父さんに働かされているの？』と憐憫の情を寄せられたそう。あの頃から計算づくの演出力を備えていた訳ですナ。

二代目会長を拝命する私が小林と知り合ったのは、その活動が一年目を迎えた頃でした。芸術全般を疎んじる大酒喰らいの両親に育てられた私は、散発的に上映されるチャップリン等に目の色変えて憧れる少年でした。稚拙で、学校でも最劣等生の私の場合、情報収集なんて『行為』は単語すら知らず、ひたすら大手配給会社の公開を鶴首で待っているだけが最大限の努力だったのです！?そこで巡り会ったのが小林！私が観た事

もない作品（同年代ならばリバイバルはおろか、年輪的に観ている筈もない映画）を流暢に解説します！しかも『昨日観たら…』『家で観た時に…』と枕詞付き！私は『こいつバラノイアか？』と嘲笑しながら小林の家へ押し掛け『ホレ、見せてみイ！』と恫喝すると、当時は超高価でほとんど普及していなかったビデオデッキまで持ち出してマルクス兄弟とかベ・ターピンのホンモノ作品をご教示下さった！これらの買い物も、現在のケラリーノ・サンドロヴィッチの活躍を考えれば、ご尊父様もちよつと高めの学費を払った程度に納得されている事でしょう。

【飛躍】これは今日まで続くブツ飛んだ事件。92年に拙著「サイレント・ユメデイ全史」を刊行した時、ナンとまったく面識もないのに天下の蓮實重彦氏からイキナリお手紙が届きました！しかし『…今回の上映イベントは多忙につき御協力できず云々』と丁重なお断わりの内容。今回のイベントとは何じゃ？その頃は上映会を休止している筈だが…？

その数年後、見知らぬ女性からの電子メール『…昨日の●●社主催の劇場経営セミナーでは、帰路も楽しく過ごさせて頂き感激云々』と丁寧なお礼！セミナーなんか誰も参加しておらんゾ！しかも●●社に問い合わせると確かに拙会名で受講料まで支払われていた！

次の年、某・美大の先生と私が

名刺交換した時の事。勤務先の名刺ではなく拙会のモノを差し出した私へ意外な返答！『アナタも喜劇映画研究会ですか。遠い知り合いの人がドイツを拠点に谷川俊太郎さんや谷川賢作さんと弁士・演奏付きの上映で大活躍されているそうなんです。アナタも何か手伝われてらっしゃるんです？』すかさず私は『末端に身を置く者でして上層部の活動はよく知らないんです』と応えた。確かに05年には念願の谷川俊太郎さん弁士というキョーレツな展開にもなりましたが、現・代表の私と朋友の谷川賢作さんもドイツの大活躍なんて知らないヨーン！私とは別に拙著の作者を名乗る男が国立国会図書館へ訪れ、検索リストの著者名を変更するように頼んだなんて事件もありました。まあ、30年間でちよつとは名が知れた証しだと鷹揚に構えております！?

最後になりましたが、本年は色々な方のご協力で記念行事を多く開催させて頂きます。一部には年会費を納めなければ入場できない会場もありますが、拙会ホームページでは期間限定無料会員登録をプリントアウトできる小細工も致しました。からかい半分、是非、ホームページもご覧下さい。そして直接のご来場を！これから百年くらいも応援して下さい！

喜劇映画研究会ホームページ
<http://kigeki-eikenn.com/>